



カスタムメニュー Designer

デバイスが読んだコードを分解して 各クラスターに入力する設定 操作説明書

Rev.1.0.0
2015.05.20

改訂履歴

日付	バージョン	記載ページ	改訂内容
2015-05-20	V5.0	--	初版を発行しました。

カスタムメニュー設定 全体の流れ

Manager、Designer、iPad・iPhone アプリでのそれぞれの役割と設定・操作は大きく以下の様な流れで行います。ここでは「**②Designerでのデバイスの読取コードの分解、クラスターへの入力を設定**」について説明します。

①

Managerで
カスタムメニュー
情報の登録・編集

ConMas Manager



- カスタムメニューパネルの設定
- カスタムメニューボタンの動作設定
- 帳票定義、帳票のシステムキーの設定
- ノーマルメニューの設定

②

Designerでデバイスの
読取コードの分解、
各クラスターへの入力を設定

ConMas Designer



- 帳票定義内クラスターへのカスタムメニュー設定
- カスタムメニュー設定したクラスターの親子関係の紐付け

③

カスタムメニュー
を使用した帳票起動

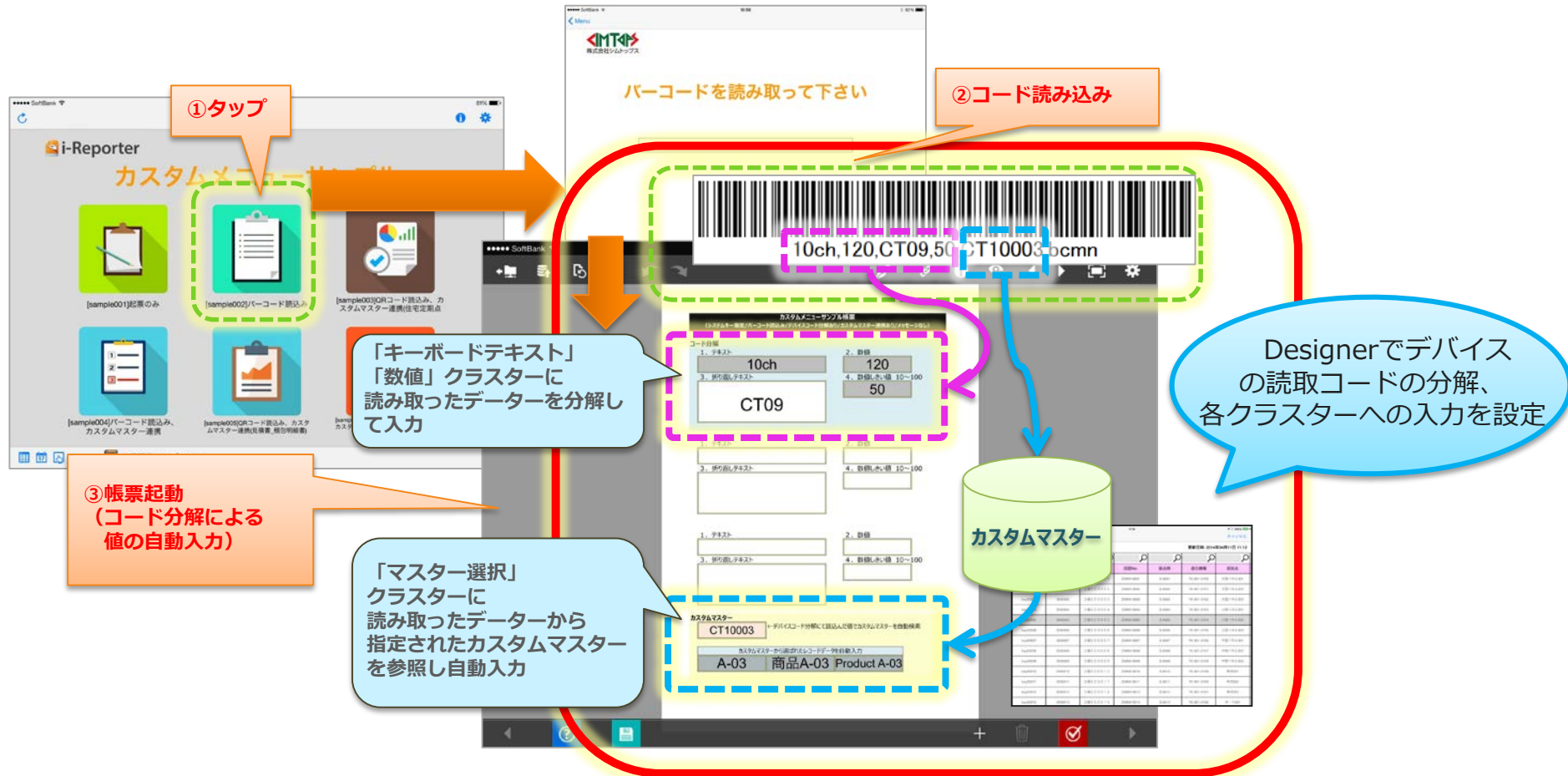
iPad, iPhone アプリ



- カスタムメニューボタンの動作設定に応じた帳票起動
- カスタムメニューのダウンロードと保存
- カスタムメニュー最新情報の更新及び自動削除

デバイスが読んだコードの分解を設定します

- Designerでは、デバイスを使用して読み取ったデバイスコードを各クラスターに分解して自動入力する設定を行います。
この時、カスタムマスターを使用した入力の設定も可能です。



デバイスが読んだコードを分解して
各クラスターに入力する設定

デバイスコード分解の設定モード

デバイスコード分解の設定はDesigner上で行います。編集画面内のクラスターモードの中から「デバイスコード分解」ボタンをクリックすると、デバイスコード分解設定モードとなります。デバイスコード入力先に設定可能なクラスター種別は「**キーボードテキスト**」「**数値**」「**マスター選択**」の3種類で、本モード中はこれらのクラスターは、緑色で表示されます。他のクラスターは黄色表示のままとなり、触ることはできません。

「デバイスコード分解」ボタン

デバイスコード分解設定モード中は「キーボードテキスト」「数値」「マスター選択」クラスターが緑色で表示されます。

デバイスコード分解設定モード中はグリッドの表示が「デバイスコード分解情報」に変わります。

不具合報告・品質対策シート			
作成日	部署名	作成者	
作成日	部署名 (DC)	作成者	(DC)
製造工場	製造工場 (DC)	図面NO.	図面NO. (DC)
製品群	製品群 (DC)	適応機種	図面NO. (DC)
部品名	部品名 (DC)	客先	客先 (DC)

不具合内容			
発生日時	発生日	発生時刻	発見場所
LOT#	LOT# (DC)	加工時間	組立時間
<状況>			

デバイスコード分解情報				
No	シートNo	クラスターIndex	クラスター名称	編集
1				
2				
3				
4				
5				
6				

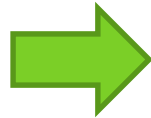
デバイスコードデータの分解方法

読み取ったデバイスコードデータの分解方法を次の3つの区切り文字タイプから選択します。
また、デバイスコードデータに対して「shift_jis」「utf-8」のいずれかのエンコード設定が可能です。

①カンマ区切り

QRコードデータを予め“,” (カンマ) で区切っておく事でデータを分解します。

0125,近藤益男,営業部



0125

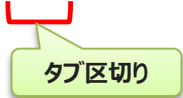
近藤益男

営業部

②タブ区切り

QRコードデータを予めタブで区切っておく事でデータを分解します。

0125 近藤益男 営業部



0125

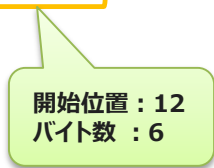
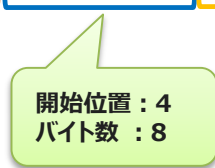
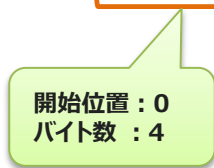
近藤益男

営業部

③バイト数指定区切り

区切りの無いQRコードデータに対して開始位置とバイト数を指定しておき、該当箇所のデータを抜き出します。

0125近藤益男営業部



0125

近藤益男

営業部

デバイスコード分解設定画面

「デバイスコード分解」ボタンをクリックすると、初回設定時に限り、同時にデバイスコード分解設定画面が起動します。設定画面上で「デバイスコード分解 区切り文字タイプ」と「エンコード」の指定を行います。

設定画面で[OK]クリック後に、デバイスコード入力先のクラスターの指定を行っていきます。設定を終えた後も、デバイスコード分解情報グリッド上で右クリックメニューから「区切り文字タイプ/エンコード 編集画面起動」を実行すると、設定の変更が可能です。

「デバイスコード分解」ボタンをクリックすると、初回のみデバイスコード分解設定画面が起動します。

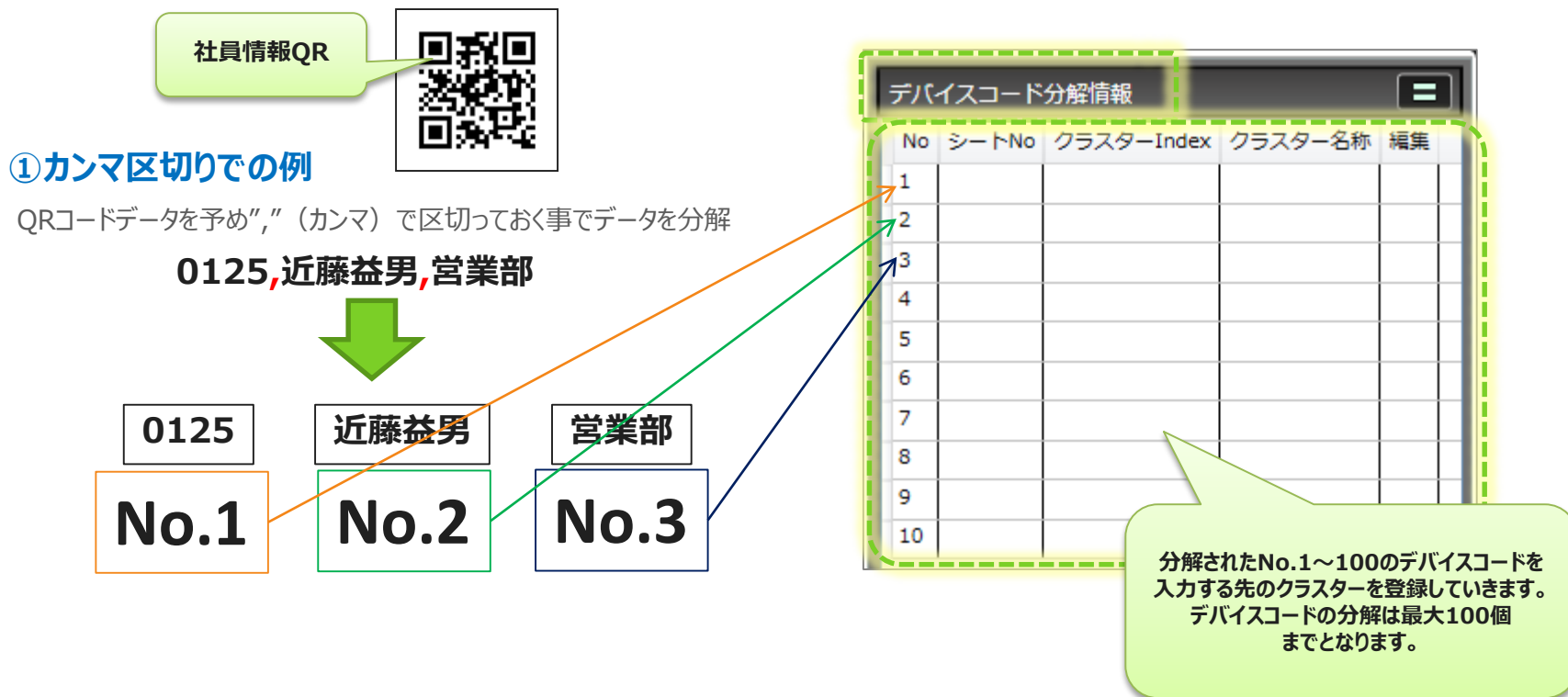
デバイスコード分解情報グリッドの右クリックメニューからも画面起動ができます。

No	シートNo	クラスターIndex	クラスター名称	編集
1	1	2	カレンダー年月日	不可
2	1	3		
3	1	4		
4	1	5		
5				
6				
7				
8				

カンマ区切り、タブ区切りの場合の設定

デバイスコード分解設定モードの時には、グリッドが「デバイスコード分解情報」表示となり No.1～100のレコード番号が表示されます。

このレコード番号は「カンマ区切り」「タブ区切り」時においての、デバイスコードデータ内の順番を表します。この各レコード番号に対しての入力先のクラスターをそれぞれ設定していきます。



分解したデバイスコードを入力するクラスターの設定

①「デバイスコード分解情報」グリッドのNo.1～100のレコードの内、入力先のクラスターを設定するレコード行を先に選択します。

ConMas i-Reporter 不具合報告・品質対策シート

作成日		部署名(DC)	作成者 (DC)	
製造工場	製造工場 (DC)	図面NO.	図面NO. (DC)	
製品群	製品群 (DC)	通称機種	図面NO. (DC)	
部品名	部品名 (DC)	客先	客先 (DC)	

不具合内容

発生日時	発生日	発生時刻	発見場所	発見場所 (DC)	
LOT#	LOT#(DC)	加工時間	加工時間	不具合品数	不具合品数(DC)

<状況>

デバイスコード分解情報

No	シートNo	クラスターIndex	クラスター名称	編集
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

①この例では、No.2、二つ目のレコードを選択。

②選択したレコードに対して、デバイスコード入力先として設定するクラスターを編集画面上でクリックします。入力する先のクラスターがその行に設定されます。

ConMas i-Reporter 不具合報告・品質対策シート

作成日		部署名(DC)	作成者 (DC)	
製造工場	製造工場 (DC)	図面NO.	図面NO. (DC)	
製品群	製品群 (DC)	通称機種	図面NO. (DC)	
部品名	部品名 (DC)	客先	客先 (DC)	

不具合内容

発生日時	発生日	発生時刻	発見場所	発見場所 (DC)	
LOT#	LOT#(DC)	加工時間	加工時間	不具合品数	不具合品数(DC)

デバイスコード分解情報

No	シートNo	クラスターIndex	クラスター名称	編集
1				
2	1	3	製造工場	不可
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

② : ①で選択した分解したレコードに設定したい入力先のクラスターをクリック。入力先として指定されたクラスターは青色で表示されます。

③ : ①で選択していたレコードに、②で選択した入力先クラスターの情報が記述されます。

バイト数指定区切りの場合の設定

「デバイスコード分解 区切り文字タイプ」を「バイト数指定区切り」に設定した場合には、デバイスコード分解情報のグリッドに、「開始位置」と「バイト数」を指定する項目が追加されます。

社員情報QR



③バイト数指定区切り

区切りの無いQRコードデータに対して開始位置とバイト数を指定しておき、該当箇所のデータを抜き出します。

0125近藤益男営業部



0125近藤益男営業部

開始位置 : 0
バイト数 : 4

開始位置 : 4
バイト数 : 8

開始位置 : 12
バイト数 : 6

デバイスコード分解情報						
No	シートNo	クラスターIndex	クラスター名称	開始位置	バイト数	編集
1						
2	1	3	製造工場	4	8	不可
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						

デバイスコードの分解は最大100個までとなります。

分解したデバイスコードを入力するクラスターの設定

①「デバイスコード分解情報」グリッドのNo.1～100のレコードの内、入力先のクラスターを設定するレコード行を先に選択します。「バイト数指定区切り」の場合は、行NO.はどこでも構いません。

No.	シートNo	クラスターIndex	クラスター名称	開始位置	バイト数	編集
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						

②選択したレコードに対して、デバイスコード入力先として設定するクラスターを編集画面上でクリックします。入力する先のクラスターがその行に設定されます。

No.	シートNo	クラスターIndex	クラスター名称	開始位置	バイト数	編集
1						
2	1	3	製造工場			不可
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						

分解したデバイスコードを入力するクラスターの設定

- ③ このクラスターに入力するデバイスコードから取り出すデータの「開始位置」と「バイト数」を指定します。

ConMas i-Reporter 不具合報告・品質対策シート

		部署名	作成者
作成日	作成日	部署名(DC)	作成者 (DC)
製造工場	製造工場 (選択中)	図面NO.	図面NO. (DC)
製品群	製品群 (DC)	部品種類	図面NO. (DC)
部品名	部品名 (DC)	客先	客先 (DC)

不具合内容

発生日時	発生日	発生時刻	発見場所	発見場所 (DC)
LOT#	LOT#(DC)	加工時間	加工時間	不具合品数量 不具合品(C)

<状況>

デバイスコード分解情報

No	シートNo	クラスターIndex	クラスター名称	開始位置	バイト数	編集
1						
2	1	3	製造工場	4	8	不可
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						

「開始位置」と「バイト数」のみダブルクリックで編集可能。

「開始位置」は0始まりで、0以上の数値を指定します。

「バイト数」は1以上の数値を指定します。

また、「開始位置」と「バイト数」はいずれも必須入力項目となります。

デバイスコード分解設定モードでのクラスターの色分け

デバイスコード分解設定モードの時には、各クラスターは次のように色分けされます。

緑色：分解したデバイスコードの入力先に設定可能で、まだ入力先に設定されていないクラスター

薄い青色：分解したデバイスコードの入力先に設定済みのクラスター

濃い青色：分解したデバイスコードの入力先に設定済みのクラスターで、グリッド上で現在選択中のクラスター

黄色：分解したデバイスコードの入力先の対象外のクラスター。モード中は触ることが出来ません。

現在、グリッド上から選択している、入力先に設定済みのクラスターは**濃い青色**

入力先に設定済みのクラスターは**薄い青色**

入力先に設定可能で、まだ入力先に設定されていないクラスターは**緑色**

No	シートNo	クラスターIndex	クラスター名称	編集
1	1	2	作成者	不可
2	1	3	製造工場	不可
3	1	4	図面NO.	不可
4	1	5	製品群	不可
5				
6				
7				
8				
9				
10				

タブレット上での編集不可/可能の設定

入力先のクラスターを指定した後、グリッド内の「編集」列のセルをダブルクリックすることで、「不可」または「可能」を選択することができます。デバイスコード分解で該当のクラスターに自動入力された値に関して、タブレット上での編集を不可とするか可能とするかを設定できます。

ConMas i-Reporter 不具合報告・品質対策シート

部署名		作成者	
作成日	作成日	部署名(DC)	作成者 (DC)
製造工場	製造工場 (選択中)	図面NO.	図面NO. (DC)
製品群	製品群 (DC)	適応機種	図面NO. (DC)
部品名	部品名 (DC)	客先	客先 (DC)

不具合内容

発生日時	発生日	発生時刻	発見場所	発見場所 (DC)
LOT#	LOT#(DC)	加工時間	加工時間	不具合品数量 不具合品名(C)

<状況>

デバイスコード分解情報

No	シートNo	クラスターIndex	クラスター名称	開始位置	バイト数	編集
1						
2	1	3	製造工場	4	8	不可 ▼
3						不可
4						可能
5						
6						
7						
8						
9						
10						

タブレットの入力において
編集不可に設定された入力先クラスターは
タブレット上でグレースアウトされ編集することはできません。

作成日		部署名	作成者
製造工場	第二工場	製造	近藤
製品群	xxxパネル	図面NO.	2098
部品名	パネル	適応機種	H0021
		客先	KMxxxx

登録したデバイスコード入力先の解除

一度登録した入力先クラスターを解除する場合、「デバイスコード分解情報」グリッド上で、解除したい入力先のレコードを選択して右クリックし、右クリックメニューから「デバイスコード分解設定を解除する」を実行します。また、右クリックメニューから「全て解除」を実行すると、No.1～No.100のレコード全ての入力先設定を一括解除します。

ConMas i-Reporter 不具合報告・品質対策シート

作成日	作成日	部署名(DC)	作成者	作成者	(DC)
製造工場	製造工場	(分解先)	図面NO.	図面NO.	(分解先)
製品群	製品群	(選択中)	部品NO.	部品NO.	(分解先)
部品名	部品名	(分解先)	客先	客先	(分解先)

不具合内容

発生日時	発生日	発生時刻	発見場所	発見場所	(分解先)
LOT#	(分解先)	加工時間	加工時間	不具合品数	不具合品数

デバイスコード分解情報

No	シートNo	クラスターIndex	クラスター名称	開始位置	バイト数	編集
1						
2	1	3	製造工場	4	8	
3	1	4	図面NO.			
4	1	5	製品群			
5	1	6	図面NO.			
6	1	7	部品名			
7	1	8	客先			不可
8	1					区切り文字タイプ/エンコード 編集画面起動
9	1					デバイスコード分解設定を解除する
10	1					全て解除

レコードを選択（複数可）して、右クリックメニューから「デバイスコード分解設定を解除する」を実行。

解除されたクラスターは元の緑色表示に戻ります。

選択していたレコードの入力先設定が解除されます。

ConMas i-Reporter 不具合報告・品質対策シート

作成日	作成日	部署名(DC)	作成者	作成者	(DC)
製造工場	製造工場	(分解先)	図面NO.	図面NO.	(DC)
製品群	製品群	(DC)	部品NO.	部品NO.	(分解先)
部品名	部品名	(分解先)	客先	客先	(DC)

不具合内容

発生日時	発生日	発生時刻	発見場所	発見場所	(分解先)
LOT#	(分解先)	加工時間	加工時間	不具合品数	不具合品数

デバイスコード分解情報

No	シートNo	クラスターIndex	クラスター名称	開始位置	バイト数	編集
1						
2	1	3	製造工場	4	8	
3						
4						
5	1	6	図面NO.			不可
6	1	7	部品名			不可
7						
8						発見場所
9	1	14	不具合品数量			不可
10	1	12	LOT#			不可

デバイスコードデータの一部だけ使用する場合

▼分解したデバイスコードデータの一部だけを使用

分解したデバイスコードデータは、その全てをいずれかのクラスターに割り当てるとする必要はありません。レコードは穴抜け状態で登録することが可能です。必要なデータのみを入力先となるクラスターへ紐付けていきます。

ConMas i-Reporter 不具合報告・品質対策シート

作成日		部署名		作成者	
作成日	作成日	部署名 (DC)	部署名 (DC)	作成者	作成者 (DC)
製造工場	製造工場 (選択中)	図面NO.	図面NO. (DC)		
製品群	製品群 (DC)	適応機種	適応機種 (分解先)		
部品名	部品名 (分解先)	客先	客先 (分解先)		
不具合内容					
発生日時	発生日	発生時刻	発見場所	発見場所 (DC)	
LOT#	LOT# (DC)	加工時間	加工時間	不具合品数量	不具合品数量
<状況>					

デバイスコード分解情報

No	シートNo	クラスターIndex	クラスター名称	編集
1				
2	1	3	製造工場	不可
3				
4				
5	1	6	図面NO.	不可
6	1	7	部品名	不可
7	1	8	客先	不可
8				
9				
10	1	14	不具合品数量	不可

No.1~100のレコードは穴抜け状態での登録も可能です。これにより、デバイスコードデータの内、一部の不要なデータは使用せずに無視するという設定が可能となります。

この画像例の場合、No.1、No.3、No.4、No.8、No.9に相当するQRコードデータを無視しています。

○デバイスコードデータの構成例（区切り文字タイプ=カンマ区切り）

No.1 No.2 No.3 No.4 No.5 No.6 No.7 No.8 No.9 No.10

作成者 **製造工場** **図面NO.** **製品群** **適応機種** **部品名** **客先** **発見場所** **LOT#** **不具合品数量**

上記の例の場合、No.1に当たる「作成者」、No.3に当たる「図面NO.」、No.4に当たる「製品群」、No.8に当たる「発見場所」、No.9に当たる「LOT#」の情報を使用せずに無視する設定となっています。

デバイスが読んだコードから
カスタムマスターを使用して
各クラスターに入力する設定

デバイスコード入力先に『マスター選択』を設定

カスタムマスターの親子関係が設定されたマスター選択クラスターを、デバイスコードの入力先として設定します。分解されたデバイスコードの値でカスタムメニューの「レコードキー」の検索を行い、紐づいたカスタムマスターのレコードを使用して自動で帳票に入力します。

(このとき、該当するレコードキーが存在しなかった場合、データの入力は行われません。)

■ Designer 上の設定

- あらかじめ、カスタムマスターの親子設定を行っておく

マスター	親	子	子	子
商品コード	商品名	商品名	Product Name (Product Name)	単位
商品コード	商品名	商品名	Product Name (Product Name)	単位
商品コード	商品名	商品名	Product Name (Product Name)	単位



- その後に、デバイスコードの分解設定を行う

商品コード	親 (分解先)	商品名	(DC)	Product Name	(DC)	単位	(DC)
商品コード	親 (分解先)	商品名	(DC)	Product Name	(DC)	単位	(DC)
商品コード	親 (分解先)	商品名	(DC)	Product Name	(DC)	単位	(DC)

カスタムマスターの親子関係が設定された親にあたるマスター選択クラスターをデバイスコード入力先に設定します。

■ タブレット上の操作



商品状況,5,12,123,1234

それぞれのレコードキー



レコードキー	商品コード	商品名	Product Name	単位	高さ(cm)	幅(cm)
12	A-02				50.2	30
123	A-03				60.5	40
1234	A-04	商品A-04	Product A-04	60	234.5	50

分解されたデバイスコードの値でレコードキーを自動的に検索します。

※自動で行うので、実際にはこのレコード選択画面は表示されません。



カスタムマスターから該当するデータを取得し帳票上の子のクラスターに入力されます。

A-02	商品A-02	Product A-02	枚
A-03	商品A-03	Product A-03	式
A-04	商品A-04	Product A-04	個